



DOPPO KUNIKIDA

## 国木田 独歩 (1871-1908)

明治4年8月30日、千葉県銚子に生まれる。父国木田専八、母まん。明治26年から27年にかけて佐伯に鶴谷学館の教師として赴任。弟とともに坂本永年郎(現国木田独歩館)の2階に下宿し、一年足らずの日々を過ごした。この間、城山をはじめ佐伯の自然の中を歩きまわり、周囲の人びとと交流する。これらの経験は後の作品に大きな影響を与えることとなり、「春の鳥」「源おち」「鹿狩」など、佐伯を舞台とする作品も少なくない。再上京後は従軍記者を経て雑誌編集などに従事するが、明治41年6月23日病死。「武蔵野」「忘れえぬ人々」「欺かざるの記」など、明治の文壇に輝く名作を数多く残す。



独歩館外観写真

開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日  
(月曜日が国民の休日の場合は翌日が休館となります)  
(年末年始 12月29日～1月3日)

入館料 個人大人200円 小人100円  
団体15名以上大人100円 小人50円  
(小人対象は小・中学生)

### 「周辺地図」



表紙の図版は「佐伯藩時代歴史園(独歩堂印刷所・昭和八年発行)」の図録をもとに、新たに描きおこしました。

## 城下町佐伯 国木田独歩館

〒876-0848 大分県佐伯市城下東町9番37号 電話(F) 0972-22-2866  
9-37, JOUKAHIGASHI-MACHI, SAIKI CITY, OITA PREFECTURE

国  
SAIKI MUSEUM OF DOPPO KUNIKIDA



城下町佐伯

# 国木田独歩館



Saiki Museum of Doppo Kunikida

本館の建物は、明治26年10月から明治27年6月末までの間、国木田独歩と弟収二が下宿した坂本永年邸です。坂本永年は独歩が教師として勤めた鶴谷学館の館長であり、公私ともに面倒を見ていました。独歩は主屋2階に下宿。裏山にあたる城山の山上まで散歩することも多かったようです。このような佐伯と独歩の関わりを彼の過ごした坂本邸でご紹介するために建物を修復し、

国木田独歩館として公開することになりました。展示は大きく主屋と土蔵に分かれ、それぞれ1階と2階をご観覧いただけます。明治の若き文豪が過ごした佐伯の日々に思いをはせるひとときをごゆっくりお過ごしください。

【建物配置図】



Main House



主屋

【主屋一階】  
独歩が過ごした明治時代の佐伯を紹介する写真コーナーや、作品に描かれた情景をイメージした映像展示、企画展示室があります。当時の居間を活かした休憩室もご利用ください。

【主屋二階】  
独歩と弟収二が下宿した部屋。低い天井が特徴で、腰を下ろして見る意外の風景も趣があります。独歩はここから当時よく見えた元越山を眺めました。



裏庭園

Back Garden

城山の麓にあたる地形を活かし、立体的に構成された庭園です。すでに坂本永年の時代には築造されていました。山際からしみ出る湧水を溜めた池と古木が、武家屋敷らしい風情を醸しだしています。

Ware House

土蔵

【土蔵二階】

独歩の作品を手にとって読書を楽しめるコーナーや貴重な初版本の展示を行っています。また、独歩デジタル文庫では佐伯に関わる作品をわかりやすく説明し、画像や音声飛び出す電子ブックを用意しました。独歩文学の魅力をお楽しみください。



【土蔵一階】

独歩の生い立ちや文学的な特徴を資料とグラフィックで解説しています。佐伯との出会いやその後の足跡、書簡などをご覧ください。

